

病虫害防除所情報 第2号

令和3年8月26日
山梨県病虫害防除所

トビイロウンカの発生に注意

1. トビイロウンカ

[発生状況]

定期的を実施している水稻すくい取り調査（10地点10ほ場）に加えて、昨年坪枯れが発生した地域（南部町、身延町）を中心に本田における株元調査を行ったが、8月上旬までに発生は確認されていない。しかし、気象データに基づいた飛来解析（日本植物防疫協会）では、トビイロウンカの県内への飛来好適条件は、坪枯れ被害が発生した昨年と比べるとやや少ないものの、早い時期から多く出現している（表1）。また、近県である静岡県や岐阜県では断続的な誘殺が確認されており、本県においても飛来している可能性が十分に考えられる。

表1 県内への月別トビイロウンカ飛来予測回数

月	R3(2021)			飛来予測回数合計 ^{※1}		
	トビイロ /セジロ	ヒメヒ	合計	平年値	R2	R1
				H23 ~R2	2020	2019
5月	6	1	7		0	0
6月	2	0	2	2.2	5	2
7月	3	0	3	4.4	11	0
8月 ^{※2}	5	0	5	1.3	4	0
計	16	1	17	7.9	20	2

※1) トビイロ/セジロウンカ、ヒメヒウンカの
飛来予測回数の合算値

※2) 8月1日~24日集計結果

[生態と被害]

トビイロウンカは、日本では越冬できず、主に梅雨期にジェット気流に乗って中国大陸から飛来する。飛来後は、世代を繰り返すたびに増殖する。このため、飛来する時期が早く、飛来数が多いほどその後の発生量が多くなる。秋期に高密度となると、イネを吸汁し、枯死・倒伏させる被害（坪枯れ）が発生する（図1）。



図1 坪枯れ被害

[防除対策]

- トビイロウンカは株元に寄生しているので、株元をよく観察し、1株あたり3頭以上の虫が認められた場合、直ちに薬剤防除を行う（図2）。

- ・ 液剤及び粉剤による防除を行う場合は、薬剤が株元まで届くように散布する。
- ・ 昨年被害があった地域では、出穂期以降に粒剤を散布し、早めの防除を行う。
- ・ 坪枯れの初期症状が確認された場合、防除の実施または早刈りを実施する。



図 2 株元への寄生

[防除薬剤]

薬剤名	収穫前使用期間	使用回数	希釈倍率または使用量
スタークル顆粒水溶剤	収穫 7 日前まで	3 回	3,000 倍
アルバリン顆粒水溶剤	収穫 7 日前まで	3 回	3,000 倍
アルバリン粒剤	収穫 7 日前まで	3 回	3kg/10a
トレボン粒剤	収穫 21 日前まで	3 回	2kg/10a
トレボン粒剤 DL	収穫 7 日前まで	3 回	3kg/10a